

壮大な演歌

最近は、演歌をよく聴くようになった。
決まって、午前中はクラシック「カラヤン指揮のアダージョ」、「ワーグナー小品集」や夕方は「石原裕次郎のアルバム」、そして夜はテレビで「演歌」を探す。

そこで、思わず壮大な楽曲に出会った。
「天の意のまま」という演歌？いや演歌で無いのか？神野美伽が演じている。

歌いつぶりが小気味よい女性歌手で、他に「春夏秋冬屋形船」という江戸っ子の小粋な調子の持ち歌がある。それも気に入っている。

歌詞を紹介したい

人は情けと慈しみ 生きる証（あかし）は他に無い 花に生まれりや散ればいい 蝉に生まれりや鳴けばいい 命惜しむな惜しむな命 天の意のまま 僕は僕

百年の夢見れど すべて大地（つち）に還り 人間（じんかん）
到るところに青山ありと

· · ·

とりわけ感じ入ったのは、「人間（じんかん）到るところに青山（せいざん）あり」。※人間は人の世、青山は骨を埋めるといふ

世界は広い。どこにでもチャンスは有る。例え逆境に置かれても、将来を悲観せず広い世界で自分の可能性を信じて努力すれば、必ずや道は開ける前向きのメッセージだ。

やや、力んだか。

（いや、その意氣でちょうど良い）